

忘れられない授業

「ごめん。遊べなくなった。明日遊ぼうね。」

私が小学校のある学年のとき、ある友達から命令されて、先に遊ぶ約束をしていた友達に断りを入れたときの私の言葉です。その友達は嫌な顔をせず理解を示してくれました。命令した女の子のことが怖くて従っていることに友達は気付いたのです。「命令されたのだから仕方がない。」と何度も自分に言い聞かせましたが、そうすればそうするほど自分が悪く思えてなりませんでした。

私はまず、母に話をした後、怒られるのを覚悟で担任のN先生に話すことにしました。先生は怒るわけでもなく、真剣に話を聴いてくれました。すると、先生は私の話をそのまま文章にし、それに関わった人の名前を変え、授業をしてくれたのです。

その授業が始めると、私は胸のドキドキが止まりませんでした。私が先生に訴えたことが、関わった人に分かってしまうからです。けれども、私が遊ぶのを断った友達には私の反省の気持ちが伝わったように思います。何より私自身が、絶対に同じことを繰り返さないと強く決意することができました。そして授業の後、友達に素直に謝ることができました。

N先生へ

先生が書かれた通信に「何か問題が起きた場合、当事者になったときに今日の決意が試されます。楽しみです。」とありました。あれから似たようなことがありました。「それはできない！！」ときっぱり断ることができるようになりました。それは先生のあの授業があったからです。ありがとうございました。

孝子 友萌

(中学生)